

初段

硬筆検定試験問題 (60分) (第104回 令和4・7)

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

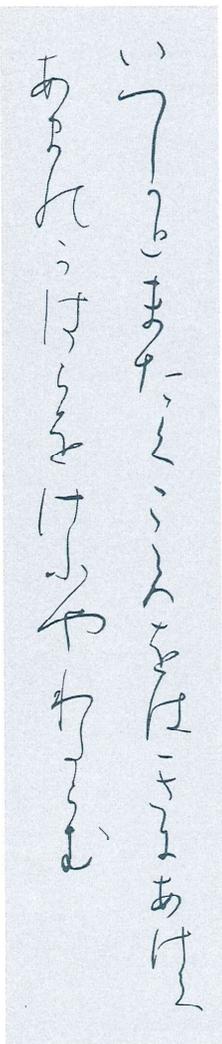
清 和 落 梅 風

問二 次の曹全碑を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(關是以郷人)

問三 次の高野切第三種を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(いつしかとまたぐころをはぎに^可あけてあまのかはらを^尔けふやわたらむ^多)

問四 次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

広い門の下には、この男のほかには誰もいない。ただ、所々丹塗りの剥げた、大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまっている。羅生門が朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、雨やみをする市女笠や揉烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかには誰もいない。

(芥川龍之介「羅生門」より)

問五 次の□内の掲示文を問五解答用紙に、位置・文字の大小を考えて、フェルトペンか、筆ペンで書きなさい。(縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい)

- 期日 令和四年七月十五日(金)
- 会場 都城市総合文化ホール
- 第八回 国際交流体験発表会
- 主催 宮崎県高等学校文化連盟
- 後援 宮崎県教育委員会